

全日本中学校長会定期総会 会長就任挨拶

ただいま、全日本中学校長会第36代会長としてご承認いただきました、新宿区立西早稲田中学校長 三町 章 でございます。

この演台に立ち、今、感じておりますことは、全日中会長の職責の重さであります。半世紀を悠に超える長い歴史と実績のある全日本中学校長会、全国一万人の会員の皆様に支えられ、確固たる組織として日本の学校教育の発展に大きく貢献してきた全日本中学校長会です。身の引き締まる思いでございます。

これまで会長職を務められた先輩方は、秀でた先見性と思考力、適切な判断力と果敢な行動力を発揮され、組織を力強く牽引してこられました。その姿を見ております私には、全日中の会長として、その職責を果たすことができるのか不安であるという事実は隠せません。微力ではありますが、常に課題意識とチャレンジ精神をもって、誠心誠意、全力で諸課題に取り組むことをお誓いいたします。ぜひ、会員の皆様方には、多大なるお力添えをいただきたくよろしく願い申し上げます。

最初にお約束したいことがございます。それは被災地の校長先生への支援です。

昨年3月に発生した、東日本大震災によって甚大な被害を受けた地域や学校関係者の皆様のこれまでの労苦は、想像に余りあるものです。それは東北地区や東北各県、仙台市の校長会がまとめられた報告書の記載内容からも痛いほど伝わってきます。「校長は、どれだけ努力したかではなく、何をしたのかという結果が求められることを痛感した。このことを肝に銘じ、職責を果たしていきたい。」これは、ある校長先生が報告書に書かれた復旧・復興への決意です。

未だに十分な教育環境といえない学校、地域があることも事実です。しかし、この校長先生の決意に見られるように、被災地では、安定した教育活動の実現に向けた校長、教職員をはじめ学校関係者の献身的ともいえる、懸命な努力があつて現在に至っていると拝察いたします。心よりご慰労申し上げますとともに、全日中としまして、行政からでは手の届きにくいことへの支援への取組を継続的に行うことをお約束いたします。

さて、平成20年3月告示の学習指導要領も全面実施となりました。10年前の今頃は平成10年12月告示の学習指導要領が全面実施の年でありながら、学力低下への強い懸念が世の中に大きな渦を巻き、まさに嵐の中での船出といえる状況でした。それを思うと、全国の各中学校においては、着実な一歩を踏み出したものと受け止めています。

全日本中学校長会定期総会 会長就任挨拶

世の中はすでにグローバル化が進展し、知識基盤社会の時代にあります。「競争」と「共存、協力」とがともに必要とされる大変難しい社会です。大人自身が日々、こうした変化への適切な対応を求められています。このことを考えると、これからの時代を生き抜く子供たちに身につけさせるべき力、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」の育成を目指す、新しい教育課程の重要性を改めて強く認識し、着実に推進するという責任の重さを感じずにはおれません。まさに、これまで全国の中学校で研究・実践を積み重ねてきたことの真価が問われる正念場であるといえます。

一方、教育諸条件の整備・充実に関してはどうでしょうか。中学校学習指導要領の全面実施に合わせた、少人数学級の実現や基本定数の改善がなかった義務教育費国庫負担金に代表されるように、十分な状況とは言えません。このような状況で、思う存分特色ある教育活動を展開するための学校環境の確保はされるのでしょうか。子どもと向き合い、語りあう時間は確保されるのでしょうか。どこでも同じICT環境で学べるのでしょうか。このままでは、人的にも物的にも全国各都道府県における格差は広がるばかりです。また、教育に関する課題解決の方向性に関しても、一例をあげれば、教員の資質向上策として制度化された10年経験者研修、その後に教員免許更新制の導入、現在は新たな教員免許状の創設といったように、そのときそのときの政治情勢によって変化している現実もあります。東日本大震災で被災した地域の教育復興への支援もまだまだ必要です。

今後も中学校教育の振興を図り、国家社会の発展に寄与すべく、国に求めるべきものは引き続き要請してまいります。主張すべきことは主張します。「発信する全日中」「行動する全日中」です。とはいえ、学校は生きています。生徒は日々成長しています。国・地方が厳しい財政状況の中にあっても、教育の営みを止めたり、緩めたりすることはできません。校長としてやるべきことはやる。全日中としてやるべきことはやる。校長同士が「我々意識」をもち、「有言実行」という行動理念を受け継ぎ進んでいくこと。それが課せられた使命だと強く思っています。

私たち校長の熱い思いを込めて作成した全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」も、これを発表した第60回福島大会から3年目を迎えています。この教育ビジョンは、行政主導のいわゆる上からの改革でなく、教育の実践的専門家にして学校の最高責任者である校長が、自らの明確な改革ビジョンを持って積極的に学校からの教育改革に迫ろうとするものです。その後の高知大会や埼玉大会、各

全日本中学校長会定期総会 会長就任挨拶

地区研究大会で全日中教育ビジョンに基づく多くの実践が報告されております。「教育改革を目指す全日中」として、全国約1万人の校長先生方が心を一つにして取り組まれております。

3年たった今、全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」の方向にブレはありません。今後も具体的な見直しを図りつつ推進していくことが必要です。「教育改革を目指す全日中」。これをさらに進化させ「教育改革を進める全日中」とし、英知を結集していこうではありませんか。

私は、全日本中学校長会会長として、この演題の後ろに掲げられております五つのスローガンの具現化に向けて、先頭に立って行動することをお誓いし、就任の挨拶とさせていただきます。